

川間太田産婦人科医院
院長

太田八千穂

自分に正直に生きていけば 人は認め
てくれる

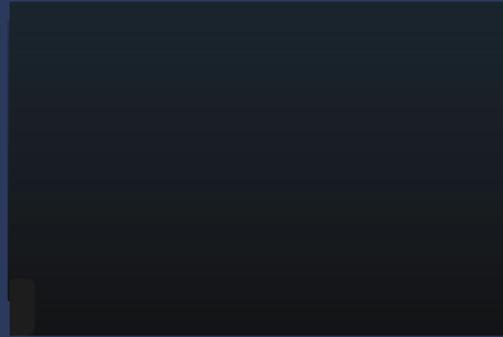


PROFILE

太田八千穂

1944年生まれ、東京都出身。69年、東京慈恵会医科大学卒業後、東京都がん検診センターなどで勤務医として経験を積み、腔式手術の技術を確立した辻啓氏に会う。東京慈恵会産婦人科講師を経て、85年に川間太田産婦人科医院開院。体に負担の少ない腔式手術に特化している。

<http://www.ota-clinic.jp/>



INTERVIEW

研修医時代、手術室で患者さんの呼吸に合わせて麻酔バッグを押す役割を任された時のこと。連日の睡眠不足のせいで、私の意識は何度も飛びそうになっていました。もし本当に眠ってしまっただけで麻酔バッグを押す手を止めれば、患者さんは亡くなってしまいます。そう思った時、患者さんの生命を感じてハッと我に返りました。今でも、手術の度に患者さんの命を感じて「絶対に助けるんだ。失敗できないぞ」と強く誓い立ち覚悟を決めています。手術で患者さんの命を預かるということはとてつもなく大きな責任を伴いますが、そこに仕事の醍醐味を感じ、気持ちを動かされるのかもしれない。

医師人生を大きく変えた腔式手術との出会い

産科医になるのにこれといった理由はありませんでした。父が戦前から足立区に産婦人科を開院していたので、自分もいずれ産科医になるのだろうと漠然と考えていたのです。アルゼンチンタンゴに傾倒してスペイン語を学ぼうかと思ったこともありますが、結局医学部を目指しました。私も兄も開成高校に通いましたが、成績は常にトップで東京大学に現役合格した兄と比べて私はさほど優等生でもなく、兄とは別の大学に進学しました。

卒業後、勤務医としてキャリアを積んでいた頃に出会ったのが、私の恩師である辻啓先生です。辻先生は、開腹せずに子宮筋腫を取る腔式手術の技術を確立しました。先生がこの手術について「外科医ではなく産科医だからこそできる」「投影図や立体の感覚が分からないと理解できないだろう」とおっしゃるのを聞いて、一体どんな手術なのだろうと非常に興味を持ちました。そして実際に見せていただいて、私の感性にぴったりはまる手術だと感銘を受けたのです。とても難しい手術なのですが、医師の技量がそのまま結果として表れるところにやりがいや面白さを感じました。辻先生は、海軍兵学校在学中に終戦を迎えられたそうです。戦死する仲間も大勢いる中で生き延びたやるせなさや悔しさを、医師として難解な腔式手術に打ち込むことで昇華されたのかもしれない。私も大学受験に失敗し、敗北感を味わいました。大した成績でもない自分が普通の医師になっても大成しないのではともやもやしたものを抱えていましたが、腔式手術を知って「これを覚えればメシを食っていける」と、生きる道を見つけたような思いがしました。その後5年間、辻先生の元に通い続け1日3件の執刀を積み重ねました。

辻先生は69歳で亡くなる直前まで、第一線で手術を続けられました。苦勞して編み出した腔式手術の技術を惜しみなく若い医師たちに伝えてこられたことに尊敬の念を抱かずにはられません。



手術には嘘が通用しない

私が開業したのは、腔式手術を極めるためです。最新鋭の機械や設備に頼ることなく自分の腕一つで勝負できることや、嘘やごまかしが通用しない分、答えが明確なところに大きなやりがいと魅力を感じています。腔式手術を手掛ける医師は数少ないので、全国から来られる患者さんのためにも確かな技術を提供し続けていきたいですね。

若い頃は医師を目指して必死に勉強しましたが、本当は文学も好きでした。文章を書くことが楽しいので、いずれ自分の人生を文章化してみたいですね。辻先生が亡くなった時、膨大な手術記録が残っていました。私も、古いカルテを引っ張り出しながら、今まで半世紀歩んできた医師としての記録をつづたら面白いかもしれません。私が好きなフェリーニの「道」ぐらいのレベルに仕上がったらいなと思います。



「ジューズ」というタンゴの曲があります。その中にメンティエラという単語が繰り返してきます。嘘という意味です。20歳前後の頃、社会の壁にぶち当たって「世の中は不条理だ、嘘ばかりだ」と不満を感じていた私にはとても染み込みました。今振り返ってみれば、自分に正直になれと教えてくれたのだと思います。

体裁のために口では良いことを言っても、腹の中が真っ黒な人はたくさんいます。世間に調子に合わせて、弱みを見せないようにしているのかもしれませんが、大人になるにつれてそんな人が増えてきます。だからこそ、嘘がない人は魅力的です。

今の世の中は、自己主張をすれば指を差されやすいかもしれません。それでも、ふれずに自分の思うままに行動すれば、人は認めてくれます。今まで生きたことは否定されません。今まで私は楽しかったですよ。若者の皆さんも、自分に素直に正直に生きてください。